

報道機関各位

発信日	令和6年10月15日	担当者名	木附 良介
担当課	市民協働課	電話番号	0942-85-3576

## 弥生が丘まちづくり推進センター主催講座

### 元高校教諭 牛島啓爾氏 平和講話「戦争中の生活と鳥栖空襲」

事業内容	<p>弥生が丘まちづくり推進センターの主催講座として、弥生が丘小学校の6年生に、元高校教諭の牛島啓爾さんが戦争中の実体験を基に「戦争のない平和な世の中」の大切さについて語ります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●日 時 10月28日（月曜日）13:25～14:25（5校時）</li><li>●場 所 弥生が丘小学校 体育館</li><li>●内 容 牛島啓爾さんは戦時中の実体験を次世代に語り継ぐため、79年前の終戦間際に119名の戦死者を出し甚大な被害が出た鳥栖空襲や、戦争中の暮らしぶりを幼い頃の記憶を手繰り寄せ絵手紙にし、一枚一枚飾り気のない絵と文章をしたためています。「戦争のない平和な世の中」を願い、貴重な体験談を語っていただきます。また、当日は鳥栖市文化財の戦時中の防空頭巾、千人針、ヘルメット、ラッパ、そして再現した「竹やり」を展示します。</li><li>●問い合わせ 弥生が丘まちづくり推進センター（☎0942-55-8633）</li></ul>
------	---

添付資料	絵手紙
------	-----

関連サイト	—
-------	---



出征、お父さんやお兄さんは戦地や軍事工場へ連れていかれ、家には年寄りやお母さん、子供たちが残されました。国のためにいのちをかけて戦うことが国民の義務だと教え込まれて親や妻や子供と別れて出かけてきました。日本は平和が続いていますが、いま、ウクライナの人たちの苦しみを考えてみると、戦争中の日本を思い出し、早く戦争を終わらせなければなりませんね。

出征、お父さんやお兄さんは戦地や軍事工場へ連れていかれ、家には年寄りやお母さん、子供たちが残されました。国のためにいのちをかけて戦うことが国民の義務だと教え込まれて親や妻や子供と別れて出かけてきました。日本は平和が続いていますが、いま、ウクライナの人たちの苦しみを考えてみると、戦争中の日本を思い出し、早く戦争を終わらせなければなりませんね。

しゅっせいへいし  
1. 出征兵士を送る

国からの命令によって軍隊に入る  
しょうしゅうれいじょう  
召集令状 (赤紙)

# 戦争中の思い出

## 慰問袋... 戦地の将兵の慰問

千人針... 白又は黄色の

のために石けん、タバコ、医薬品

さらしめんじんに1000人の女性か

お守り、慰問の手紙などを

赤糸で一针おつ縫い玉をつくり

入れて送る長布袋。

出征兵士の腹巻にすると弾丸よけ

婦人会、お落会、町内会

になるとそれをお守り。宙空の女性に  
小学校などで慰問袋

自分の手紙の分、結び目を  
か作られ出征兵士に

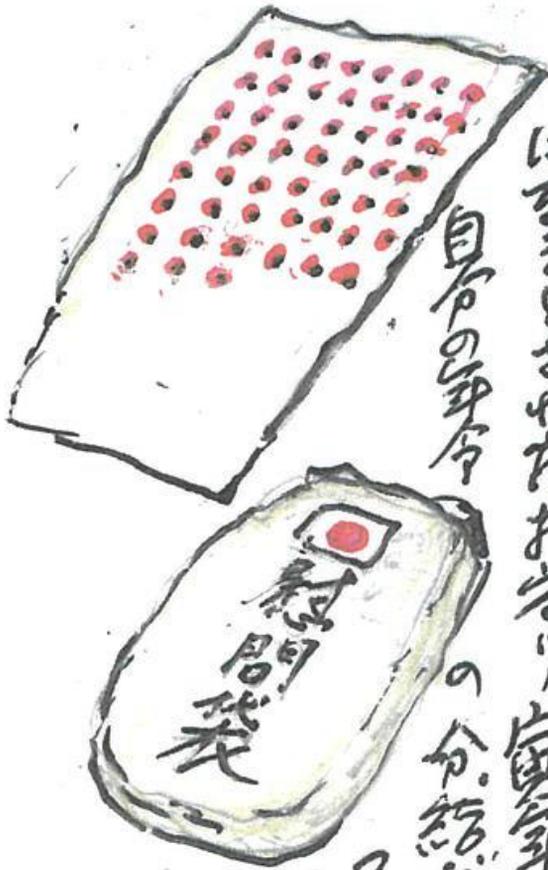
つくる  
送られました。

よがね。日露戦争から太平洋

宙空は戦争のころまで続け

千里行くとお守りしました。

千里帰るといわれていました。



## 2. 戦地の兵士に送るもの

せんになぱり いもんぶくろ  
千人針、慰問袋、手紙、  
写真、お守りなど



防空演習、戦時中は敵機の爆撃に備えて

国防婦人会のお母さんたちは在郷

軍人の指揮のもとに防空演習に

かり出されてました。防火用水がどこ

の家にも備えてあり、砂袋もありました。

時々、お宮の広場や、学校の運動場

に集められ、わら人形で作った敵国の大将

を竹槍で突き殺すという竹槍訓練も

ありました。もうそういう当時の戦時下の

様子を覚えて、主人も少なくなるといふよう

防空頭巾は大人も子供もいっしょにしました。



### 3.爆撃にそなえての訓練

ぼうくうえんしゅう

防空演習…防火用水、バケツなど

# 竹槍訓練



銃後の守り」という言葉がよく使われていた。戦場の後方、つまり戦場に加われない一般国民の守り、という意味である。婦人会のお母さんたちや、女学生など学校の運動場などで竹槍訓練が在知軍人の指揮で行われていました。パラシュートで降りてきた敵を竹槍で突き殺す、というわけである。当時の日本人はあまりにも無知だったんですね。



## 4. 竹槍訓練

「銃後の守り」 「鬼畜米英」



学徒動員 昭和19年8月政府は学徒動員令

を公布して、全国の国民学校高等科（今の中学生）  
中等学校（今の高校生）を軍需工場に動員し

て軍需工場の部品の製造にあて

ました。このころになると、学校での

勉強はほとんどありませんでした。

大学生や専門学校の学徒たち

は陸海軍部隊に配属されて、

厳しい軍事訓練を受けました。



9

## 5. 学徒動員

旧制中学生（男子） 軍事工場へ動員

戦争中の思い出、空襲衣のときに退避するために  
 地を掘る壕を作りました。頭部まねいりを守るために  
 防空頭巾をかぶっていました。防空壕は屋敷内に  
 掘っていました。食料や日用品  
 を置いていました。空襲警報のサイレン  
 がなるとどこでもあわてて壕に入りました。  
 防空頭巾は夏は暑かったけれどいつも



手元において、学校にも必ず  
 持て行きました。いろいろ  
 と当時のことが思い出され  
 ます。



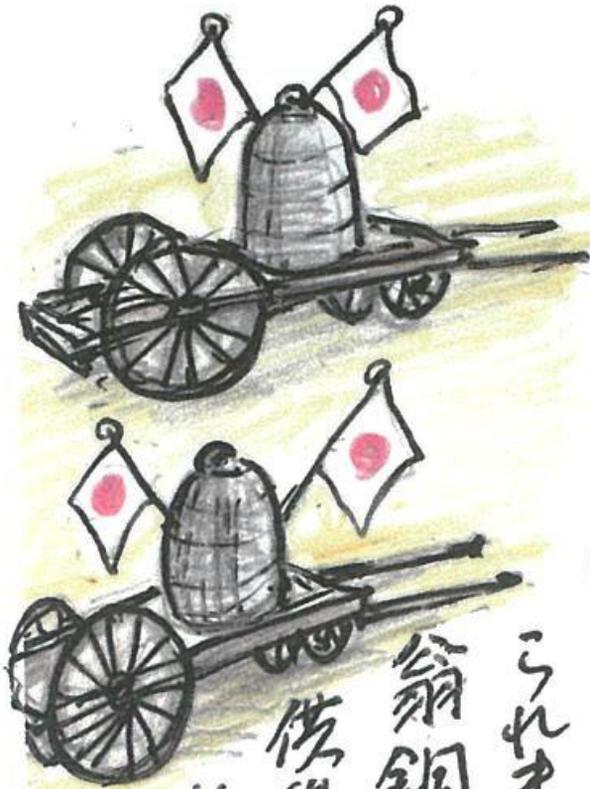
## 6. 防空壕

警戒警報、空襲警報のサイレン、機銃掃射

# 金属類の軍への供出

太平洋戦争も激しくなる中、お寺の梵鐘  
をはじめ、鉦浮立用の鉦から銅像など、武器  
弾丸の原料のためといって、強制的に供出させ

られました。東所にあった八坂甚八  
翁銅像も、赤たすきをかけられ  
供出させられました。各家庭の  
仏壇の鈴やロソク立こまこ  
集められました。



## 7. 金属類の軍への供出

お寺の梵鐘、鉦浮立用の鉦、銅像（八坂甚八翁の銅像）

鳥栖空襲 昭和二十年八月十日



午前十時三十分から十一時三十分まで三波の編隊群に  
よって爆撃をうけました。死者藤木37人、曾根崎23人  
東町9人、国鉄職員が12人、学徒勤労員6人ほか12人  
計93人。この時、宿と蔵上  
の間にも爆弾が落ちました。  
約二〇メートルほどの溝の中に  
私は母と赤ん坊の弟と三人で  
目と耳をふさいで臥せていま  
した。土砂がとんできて、地  
かまきかして、もう死ぬかと  
思いました。



8.鳥栖空襲 (1)

鳥栖駅機関区、高射砲陣地、日清製粉 (火薬工場)



鳥栖空襲 昭和三年八月十一日

爆弾が落ちたところから二〇〇メートルほどの田圃で田の草取りをしていて母のところにへ、赤ん坊の弟をおんぶしてお乳をのませに来たときでした。近所の溝に急いで隠れていました。弟はワーワー泣くし、母もあやうそいしましたが、「いって母子三人死んでももう仕方がないね」と言われたことをはきり覚えてます。落雷のような音と、地響きと、土砂が、近くの柿の木にあたる音がしました。

9. 鳥栖空襲 (2)

牛島先生の体験

# 爆弾池

昭和20年8月11日10時半から11時20分

米軍の爆撃をうけて、藤木、曾根崎、東町、本島福

などで多くの死者(二五名)が出ました。

蔵上と義父信孝の間の県道のまんなかにも  
爆弾が落さる大きな穴ができ、そのあと  
水が溜ったところを爆弾池と呼んでいま  
した。その時、近くの田圃で田を草刈りをして  
いた母のところへ弟に乳を飲ませためおんぶ  
して来ていたとき、そこが約二メートル  
ばかりの溝に伏せていて何とか難を逃れま  
したがその時の恐ろしかったことは忘れません。



## 10. 鳥栖空襲 (3)

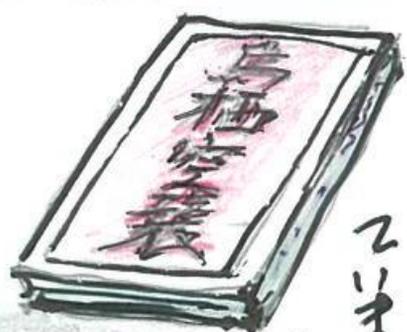
爆弾池

# 鳥栖空襲の戦死、戦災死者慰霊碑

昭和二十年八月十一日午前十時三十分より十一時三十分ごろ米軍による空襲を受けました。

藤木町、曾根崎町、東町など多数の死傷者が出ました。藤木町宝満宮の境内にはその慰霊之碑が建てられ、毎年、地域の人たちによる慰霊祭が行われます。

昭和三十二年に発行された故郷藤木二三さんの著書「鳥栖空襲」とは詳しく著者によってあります。



10-2. 鳥栖空襲の戦死、戦災死者慰霊碑  
藤木町宝満宮境内